

管内全体の年間生産量は30年前の倍となる119万1234トン記録。離農が続く中でも、各農家が規模拡大や生産性向上で乳量を伸ばしている。

生乳を搾る経産牛の頭数も30年前から35%増え、12万7011頭に。1戸当たりの飼育頭数は3倍超の111頭となった。

さらに飼養技術も向上し、1頭当たりの年間生産量は30年前と比べて45%もアップ。18年は9379キロと、1万キロの大台に迫っている。

市町村別の1戸当たり生乳生産量は、上士幌町の1860トンが最多で、中札内村の1786トン、豊頃町の1510トンと続いている。

乳牛飼育 最多23万頭超 18年十勝畜産統計

2019年5月11日

十勝農協連(山本勝博会長)がまとめた2018年の十勝畜産統計では、乳牛飼育頭数が前年比2%増の23万1625頭と最多を更新。規模拡大の傾向が続いており、肉用牛の頭数も前年と横ばいの21万5275頭となった。概要を紹介する。

◆肉用牛は横ばい

■乳用牛

飼育戸数は3.3%減の1282戸。うち個人経営は57戸減の1063戸、法人経営は13戸増の219戸。個人経営が減る一方、法人経営は増加が続いている。

個人経営は101~200頭規模が最多の340戸で、全体の32%を占める。法人経営では400頭以下が139戸と最も多く、次いで1001頭以上が23戸、501~600頭が21戸となっている。

生乳出荷農家戸数は3.1%減の1148戸。1000トン以下は50戸減の819戸だったが、1001トン以上は329戸と13戸増加、全体の約3割を占めている。

搾乳を中止した戸数は5戸増えて40戸。中止理由は経営転換が18戸、離農が22戸だった。経営転換のうち、耕種に移ったのが最多の6戸、法人化が5戸。離農の理由は後継者不足が13戸で最も多かった。

年間生乳生産量は3.7%増の119万1000トン。1戸当たりの乳量は2.2%増の9379キロ。1戸当たりの年間平均生産量は7.1%増の1037.7トンだった。ホクレン以外への出荷乳量は11.7%増の1.5万トン。

■肉用牛

飼育戸数は0.5%減の577戸。うち黒毛和種は1.3%減の471戸。繁殖、肥育農家が減る一方で一貫経営が伸びている。飼育頭数は11.1%増の4万6804頭。繁殖用雌牛はほぼ横ばい、肥育牛は10%、素(もと)牛は25%伸びた。

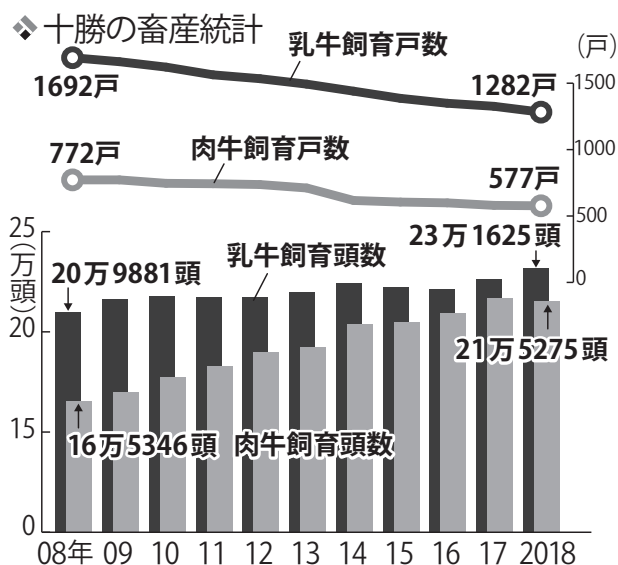
肉用のホルスタイン種の飼育戸数は1.1%減の88戸。頭数は2.1%減の9万2259頭となった。

乳用交雑種を含むその他の肉用種は飼育戸数が10.5%増加し126戸に。頭数は5.1%減の7万5330頭となっている。

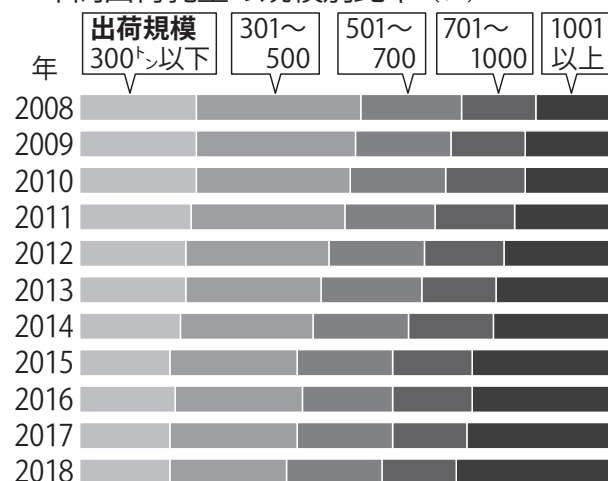
■個体販売

乳用牛の年間平均価格は育成牛が51.4万円(1.1%増)、初妊牛が90.5万円(3.6%増)、経産牛は45.6万円(0.2%増)と、それぞれ高値だった前年を上回った。

肉用牛は黒毛和種の素牛が、雌で70.5万円(4.3%減)、去勢で81.7万円(4.2%減)と前年より下がったが、高



◆年間出荷乳量の規模別比率 (%)



値で安定している。

乳用交雑種は雌が39.5万円(5.8%増)、去勢が49万円(5%増)だった。

■飼料畑

酪農家が持つ草地面積は5万619ヘクタールで、3.2%